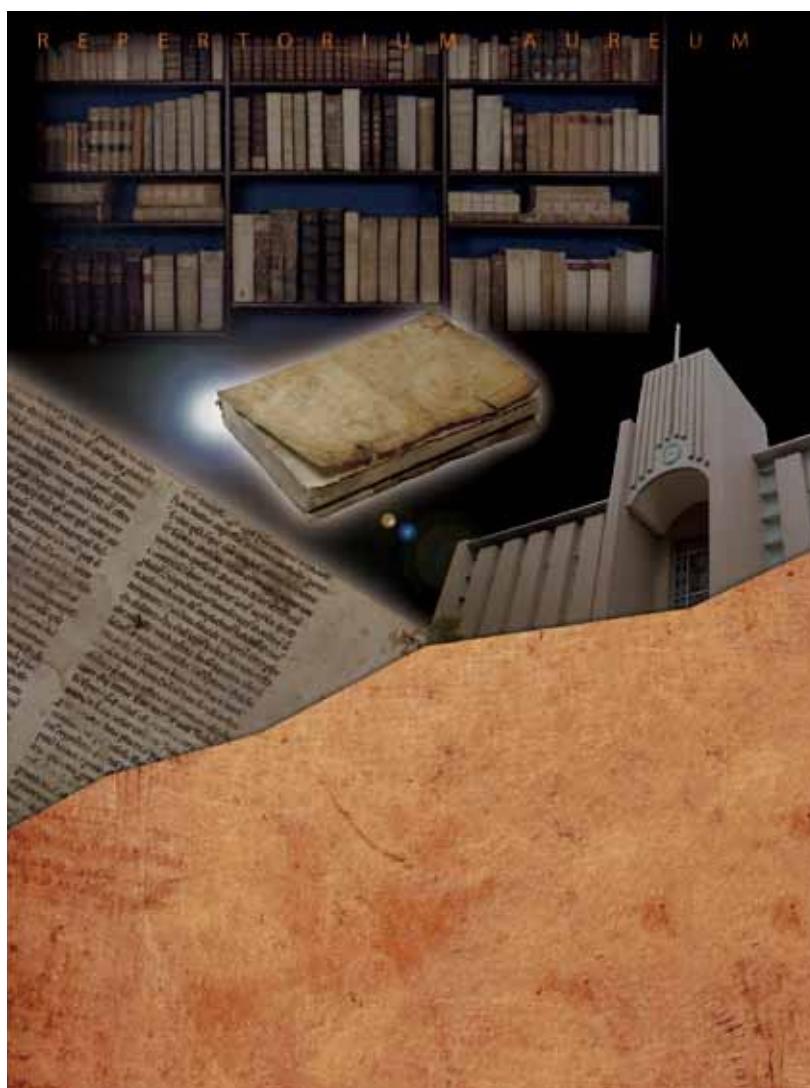


特集 法学レキシコン・コレクション
Repertorium Aureum



CONTENTS

- 特集 集 法学レキシコン・コレクション Repertorium Aureum について
法学部准教授 森 光
- 新収資料紹介 岸田理生自筆草稿
- 新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録 (2010.2 ~ 2010.7 収集分)
- 図書館 INFORMATION

法学レキシコン・コレクション Repertorium Aureum について

法学部准教授 森 光

「売春」という言葉がある。金銭と引き換えに性的なサービスを提供する行為を指すこの言葉がわからないものはいないであろう。では、この売春なる行為は、売買なのであろうか。漢字の組合せからすると、当然、肯定されると思うかも知れない。しかし、売買という用語を法律用語として厳格に用いるならば、売春は決して売買ではない。売買とは、金銭と引き換えに財産権を与える行為である。もっとも典型的には、金銭と物の所有権とを交換する行為である。売春のような金銭とサービスとを交換する行為は、売買ではなく、むしろ委任や雇用や請負といった名前の行為に相当する。

法律用語は、しばしば、言葉の通常の意味からズレた意味を持っている。その主たる原因は、法律用語が外来の概念の翻訳として成立していることにある。125 年前、本学の前身である英吉利法律学校を創立した人々が専ら従事していたことは、アルファベットで表記されている欧米の法律用語を、日本人に理解可能のように漢字へと移し変えることであった。こうした事情は、日本に特有のものというわけではない。日本の法律用語の主たる輸入元であるドイツやフランスの法学も、外来の法概念を基にして形成されたものである。彼の地の人々は、自らの言葉の世界へと、数百年の時間をかけて移し変えた。

古代ギリシア・ローマ世界の末期にあたる 6 世紀、東ローマ皇帝ユスティニアヌスは、一連の法典を編纂した。これらは後世にローマ法大全と称されることになる。ここには、1 世紀から 3 世紀の法学者たちの学説を集めた学説彙纂 (Digesta)、2 世紀半ば以降の皇帝たちの勅法を集めた勅法彙纂 (Codex)、初学者向けの教科書 (Institutiones) などがある。これらの法典は、単なる古代の遺産ではない。西ヨーロッパ世界では、11 世紀以降、実に 19 世紀に至るまで、これらは実際に効力を持った法典であった。

視点を 16 世紀のドイツに向けてみよう。この当時、ドイツには、まだ統一国家はない。大小数多くの領邦がこの地には乱立していた。各領邦はそれぞれの立法機関を有し、自らの法律を制定していたが、その立法の数、今日に比べると、全くもって微々たるものでしかない。そのため、いざ裁判になると、領邦の定められた制定法のみでは、到底、問題を処理できるものではなかった。この時、用いられたのがローマ法大全に依拠するローマ法である。

しかし、このローマ法は、アクセスがとても困難な

ものであった。そもそも 1000 年近く前にローマ人やギリシア人たちがつくったものであるし、その中身も決して体系的に優れたものではない。言葉もラテン語であり、しかも法律用語は独特の意味を有している。当時の知識人であれば、ラテン語の読み書きは可能であったが、ラテン語ができて、それだけで歯が立つような代物ではない。さらに加えて、ローマ人は、法律用語の定義を好まなかったため、ある用語の簡潔明快な定義を求めてローマ法大全を隈無く読んでも、多くの場合、全くの徒労に終わる。結局のところ、ローマ法大全から実定法を析出するためには、大学法学部に通い、師匠について 10 年近くを勉学に捧げなければならなくなってしまう。無論、これができるのは、一部の人に限られている。

そこで登場するのが、法学レキシコンである。ここには、各種の専門用語の意味を説明したり、ローマ法大全の参照すべき条文が示されたり、最新の学説が書かれている。それも、各用語ごとにアルファベット順に配列されているため、体系的知識をもっていなくても、容易に必要な情報に辿りつけるよう工夫されている。このレキシコンを通じて、法学の専門的訓練を受けていなくても、最新の法知識を人々は得ることが可能になったのである。

当時の実定法は、ローマ法大全に依拠しているとはいえ、古代のローマ法と全く同じものというわけではない。ローマ法大全に依拠しつつも、時とともに刻々と変化する。新たな学問の成果を受け、法学の方法論が変化することもある。新たな思想や哲学の影響により、新たな学説が発展することもある。そこで、この変化も踏まえ、最新の法知識を人々に伝えるため、繰り返し繰り返し、新たなレキシコンが編纂される。この動きは、19 世紀に至るまで、連綿と続く。この間、いったいどれだけのレキシコンが編纂されたかは、今後の研究をまたねばならない。このたび中央大学が購入したコレクション（表紙写真および p.4 参照）には、こうしたレキシコンのうちの 86 点が収められている。

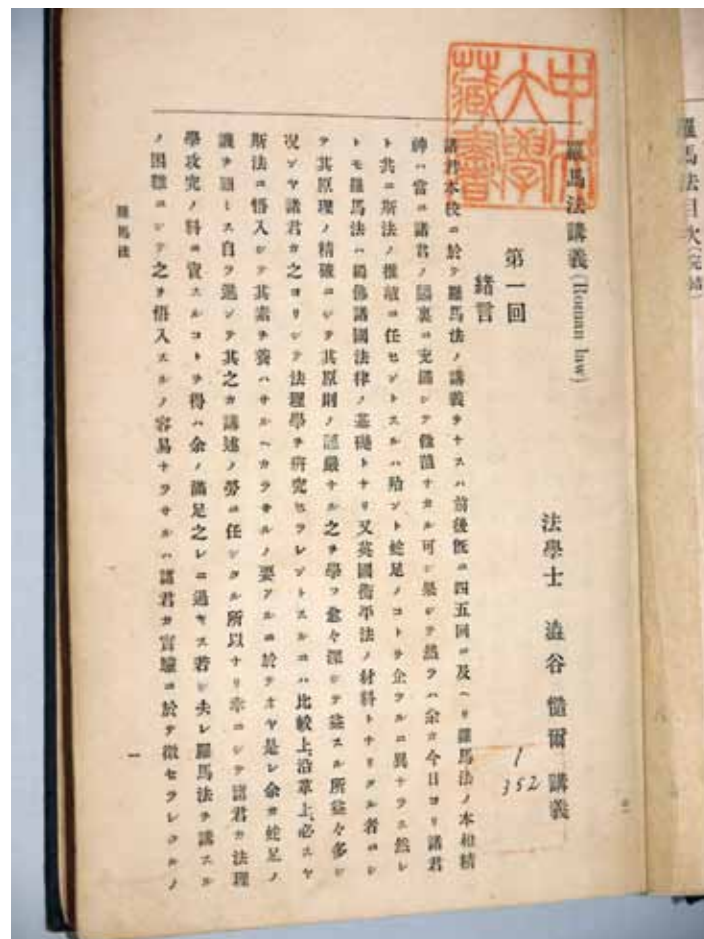
冒頭の売春と売買の例に戻ろう。法律用語としての売買は、ローマ人の産物である。彼らによるこの単語の用例は、ローマ法大全の中に無数にちらばっている。彼らの用語法は、ほぼ一貫しており、用例を丹念に集めて熟読すれば、ローマ人がこの言葉で何を考えていたかはわかる。しかし、彼らは言葉の定義を与えてはいない。数多くの用例を分析し、この言葉の定義を与え、そしてその成果をアルファベット順の事典という

形態に整理することを通じて、法学上の知見へのアクセスを容易にしたことに法学レキシコンの存在意義がある。そして、この知的営為があったからこそ、19世紀になり、ヨーロッパの法概念は、異文化の地へと継承されていくことが可能になったともいえる。

21世紀を迎えた今日、世界は多極化している。様々な言語の下、様々な法体系が独自に発展している。そ

の一方、人々は、言語や国を超えて接触し、交流し、そして紛争を生じさせている。その紛争を解決するためには、法体系の壁を越えて、相互にコミュニケーションをはからねばならない。その出発点は、自らの世界の法知識を他の世界の人々に理解できるよう伝えることである。言語や文化の壁を乗り越えることは、容易なことではない。しかし、言語や文化を超えての法知

■本学創立者のひとりである^{ぞうじ}渋谷慥爾による『羅馬法講義』
(1888(明治21)年 英吉利法律学校刊)(中央大学図書館蔵)



識の継承や伝達は、人類が初めて直面する課題ではない。

125年前、英吉利法律学校を創立した先人たちは、欧米の法制度を日本語化し、日本の人々に法知識を伝えることを目指した。その時、ヨーロッパの法学者たちは、古代ローマ世界の法を自らの世界に移し変え、自らの法学を発展させ、それを他に伝達可能な形へと加工していた。この営みは、実に数百年もの歳月をかけた営みである。この営みがあったからこそ、明治のわれらが先人たちは、わずか一世代という時間の中で、欧米の法制度を全くの異文化世界である日本へ移し変えることができたともいえる。

我が国の法学は、その後、順調に発展を続けてい

る。そして、今日、われわれは、一つの言語・文化世界の中に閉じこもっていることはできない。我々は、法知識を整理し、それを異文化世界へと伝達・発信することも求められている。今日は、情報技術の飛躍的発展の結果、かつては不可能であったことも可能になった。しかし、その前提となる法知識の他者への伝達のための方法については、その基礎理論から考えていかねばならない状況にある。このたび125周年を記念して本学図書館に収蔵することになった法学レキシコン・コレクションは、この今日的課題に取り組むにあたり、大きな示唆を与えるものと期待できる。

Repertorium Aureum(全86タイトル)から



ポスト インキュナブラ (16 世紀前半の印刷物) に該当するもの。(全 5 点)



このコレクションの中で最も古い書物 (1513 年刊)。初期の冊子本にはこの本のように木製の表紙を基礎とし、背を革でおおった半革装・半木装のものが見られる。



このコレクションの中には、事典の編纂者自身が自らの肖像画を標題紙近くに掲載しているものが少なくない。



標題紙上に、かつてこの書物を所蔵していた四つの図書館の蔵書印が見られる。五つ目となり、また最後の所蔵館となるのが、中央大学図書館である。

法学レキシコン・コレクション Repertorium Aureum の企画展示について

本コレクションの企画展示を次の要領で行います。この機会にこの貴重なコレクションを是非ご覧下さい。

期間：2010 年 10 月 4 日 (月) ～ 11 月 30 日 (火)

時間：中央図書館開館時間中

場所：中央図書館 2 階展示コーナー

新収資料紹介

本学出身女性劇作家・岸田理生の自筆草稿を入手しました！



岸田理生は、本学法学部在学中に寺山修司が主催する世界屈指の前衛劇団“演劇実験室・天井桟敷”に参加し、寺山の片腕として活躍しました。また、その後、1985年には自身の作「糸地獄」で、新人劇作家の登竜門ともいわれる岸田國土戯曲賞を受賞しました。このたび、その岸田理生の自筆草稿を購入しましたのでご紹介いたします。今回購入した草稿は、小沼勝監督の映画「古都曼荼羅」の評論です（写真上）。400字詰め原稿用紙11枚にわたりますが、ほとんど流れるような筆跡で書かれています。

当館では下記の岸田理生の著作も所蔵しています。この機会に是非岸田理生の世界に触れてみてください。

【所蔵著作一覧】（貴重書は除く）

『岸田理生戯曲集 1～3』（而立書房 2004）912.6/Ki57 中央書庫

『恋：3部作』（而立書房 1992）912.6/キ 開架

『身毒丸；草迷宮：岸田理生戯曲集』（劇書房 1997）912.6/Ki57 中央書庫

『終の栖・仮の宿：川島芳子伝』（而立書房 2002）912.6/Ka97/Ki57 開架

『草迷宮 = Le labyrinthe d' herbes』（紀伊國屋書店 2003）V778.21/Te67 AV



●岸田 理生（きしだ りお）



【提供：理生さんを偲ぶ会】

劇作家、演出家、岸田事務所＋楽天団共同主宰。

長野県岡谷市に生れる。本名、林寛美。中央大学法学部卒業。大学4年の時に寺山に師事し、寺山主宰の劇団“演劇実験室・天井桟敷”に参加する。並行して劇団“哥以劇場”を設立、座付作者となるが、1981年に解散、翌年“岸田事務所”を結成する。83年に寺山修司が死去し“天井桟敷”解散後、新劇団“岸田事務所＋楽天団”を結成。85年「糸地獄」で第29回岸田國土戯曲賞、88年「終の栖、仮の宿」で紀伊國屋演劇個人賞を受賞。演劇活動のほかにも、映画、テレビの脚本も手掛けた。2003年6月28日死去。57歳。

①教職員著作目録 2010.2 - 2010.7 配架図書一覧（ ）は所属学部等

著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
飯島 大邦 (経済学部) 谷口 洋志 (経済学部) 中野 守 (経済学部)	編著 制度改革と経済政策 (中央大学経済研究所研究叢書 46)	中央大学出版部	開架・中央	333.04/I27
荒野 泰典 (文学部) 石井 正敏 (文学部)	編 東アジア世界の成立 (日本の対外関係 1)	吉川弘文館	開架	210.18/N77
石黒 英男 (名誉教授)	著 プレヒト案内：介入する思考	緋文堂出版	開架・中央	940.2/B72/I73
石崎 忠司 (商学部) 建部 正義 (商学部) 高橋 由明 (商学部) 梅原 秀継 (商学部) 田中 廣滋 (経済学部)	監修 失われた 10 年：バブル崩壊からの脱却と発展 (中央大学学術シンポジウム研究叢書 7)	中央大学出版部	開架・中央	332.106/Ta94
石野 耕也 (法務研究科) 松村 弓彦, 柳 憲一郎 ほか	著 ロースクール環境法	成文堂	開架・市ヶ谷	519.5/Ma82
磯崎 初仁 (法学部)	編著 変革の中の地方政府：自治・分権の制度設計 (研究叢書 23)	中央大学出版部	開架・中央	318/I85
一井 昭 (名誉教授)	編 グローバル資本主義の構造分析 (中央大学経済研究所研究叢書 49)	中央大学出版部	開架・中央	333.6/I13
ジェイムズ・ボズウェル 諏訪部 仁 市川 泰男 (経済学部) ほか	著 訳 ヘブリディーズ諸島日記 (中央大学人文科学研究所翻訳叢書 2)	中央大学出版部	開架・中央	935/B66
上野 清貴 (商学部)	著 連結会計の基礎	中央経済社	開架	336.92/U45
内田 孟男 (経済学部)	編著 地球社会の変容とガバナンス (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 10)	中央大学出版部	開架・中央	302.1/C66
内田 孟男 (経済学部)	編 平和と開発のための教育：アジアの視点から (JFUND レクチャー・シリーズ 2)	国際書院	開架・中央	372.2/U14
内野 正幸 (法務研究科)	著 表現・教育・宗教と人権 (憲法研究叢書)	弘文堂	開架・市ヶ谷	323.01/U22
ミシュレ 大野 一造 (経済学部) 立川 孝一, 真野 倫平	著 監修 編集 中世 上・下 (フランス史 2)	藤原書店	開架	235/Mi13
大淵 博義 (商学部)	著 法人税法解釈の検証と実践的展開	税務経理協会	開架・中央	345.3/O19
奥田 安弘 (法務研究科)	著 国籍法・国際家族法の裁判意見書集 (日本比較法研究所資料叢書 9)	中央大学出版部	開架・中央	329.91/O54
奥本 勝彦 (商学部)	著 合併企業のマーケティング戦略：アジア地域における日系企業と欧米系企業の比較研究 (中央大学学術図書 74)	中央大学出版部	中央 商学部図書室	335.75/O55
小塩 節 (名誉教授)	著 心の旅折りの旅	青娥書房	開架	293.09/O77
落合 誠一 (法務研究科) 神田 秀樹, 近藤 光男	著 会社 第8版 (有斐閣 S シリーズ 45・商法 2)	有斐閣	開架・市ヶ谷	325/Sh95
片桐 正俊 (経済学部) 御船 洋 (商学部) 横山 彰 (総合政策学部)	編著 グローバル化財政の新展開 (中央大学経済研究所研究叢書 48)	中央大学出版部	開架・中央	340.4/Ka81
舟田 正之 金井 貴嗣 (法務研究科)	編 経済法判例・審決百選 (別冊ジュリスト No.199)	有斐閣	中央 雑誌コーナー	Z32/B10
岸 真清 (商学部) 藤波 大三郎	著 ファースト・ステップ金融論 改訂版	経済法令研究会	開架	338/Ki56
木田 元 (名誉教授) 計見 一雄	著 精神の哲学・肉体の哲学：形而上学的思考から自然的思考へ	講談社	開架	104/Ki12
アレクサンダー・ヴェルナー 喜多尾 道冬 (名誉教授) 広瀬 大介	著 訳 カルロス・クライバー：ある天才指揮者の伝記 上	音楽之友社	開架	762.34/Ki4/W59
キショール・マブバニ 北沢 格 (経済学部)	著 訳 「アジア半球」が世界を動かす：新世紀亜細亜地政学	日経 BP 社	開架・中央	319.2/Ma29
橋川 武郎 久保 文克 (商学部)	編著 グローバル化と日本型企業システムの変容：1985～2008 (講座・日本経営史 6)	ミネルヴァ書房	開架・中央	335.2/Ki22
河野 正男 小口 好昭 (経済学部)	編著 会計領域の拡大と会計概念フレームワーク (中央大学経済研究所研究叢書 47)	中央大学出版部	開架・中央	336.9/Ka96
小林 道正 (経済学部)	著 試験で点が取れる大学生の線形代数	PHP 研究所	開架	411.3/Ko12
今 まど子 (名誉教授)	編 今日出海 (人物書誌大系 40)	日外アソシエーツ	参考	M281.03/J52
今 まど子 (名誉教授)	編著 図書館学基礎資料 第9版	樹村房	開架	M010.1/Ko71
斎藤 叫 (商学部)	編著 世界金融危機の歴史的位相	日本経済評論社	開架	338.9/Sa25
上畑 鉄之丞 斎藤 良夫 (名誉教授) ほか	編 執筆 疲労の医学 (からだの科学 primary 選書)	日本評論社	開架	493.1/U36
ラルフ・プレーヴェ 阪口 修平 (文学部) 丸島 宏太, 鈴木 直志	著 監訳 訳 19 世紀ドイツの軍隊・国家・社会	創元社	開架・西洋史	234.06/P94
坂田 聡 (文学部) 山崎 圭 (文学部) ほか	編 執筆 禁裏鎮山国柱	高志書院	開架・日史	216.2/Sa37
佐藤 清 (経済学部)	編著 フランス・経済・社会・文化の諸相 (中央大学経済研究所研究叢書 50)	中央大学出版部	開架・中央	302.35/Sa85
関西活性化研究会 塩沢 由典 (商学部)	編著 監修 関西のポテンシャル：伝統文化と成長エンジン (シリーズ関西の創造 第1巻)	晃洋書房	開架・中央	332.16/Ka59
関西活性化研究会 塩沢 由典 (商学部)	編著 監修 自立する関西へ：発想の転換と未来戦略 (シリーズ関西の創造 第2巻)	晃洋書房	開架・中央	332.16/Ka59
塩沢 由典 (商学部)	著 関西経済論：原理と議題 (シリーズ関西の創造 第3巻)	晃洋書房	開架	332.16/Sh79
斯波 照雄 (商学部) 塩見 英治 (経済学部) 久保 知一 (商学部) 佐久間 英俊 (商学部)	編著 商業と市場・都市の歴史的変遷と現状 (研究叢書 29)	中央大学出版部	開架・中央	672/Sh15
清水 元 (法務研究科)	著 債権総論 (プロGRESSIVE民法)	成文堂	開架・市ヶ谷	324.4/Sh49
杉浦 宣彦 (戦略経営研究科) 有友 圭一 ほか	監修 著 金融犯罪対策の手引き：最前線の取組みと今後の展望	金融財政事情研究会 きんざい (発売)	開架・市ヶ谷	338.5/A77
鈴木 康司 (名誉教授) 伊藤 洋, 雷田 高嗣 中央大学人文科学研究所 橋本 能 (商学部)	訳 編 執筆 フランス十七世紀演劇集：喜劇 (中央大学人文科学研究所翻訳叢書 3)	中央大学出版部	開架・中央	952/Su96
高橋 宏志 (法務研究科)	著 重点講義民事訴訟法 上	有斐閣	開架・市ヶ谷	327.2/Ta33

著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
高橋 宏志 (法務研究科) 著	重点講義民事訴訟法 下 補訂第2版	有斐閣	開架・市ヶ谷	327.2/Ta33
田中 洋 (戦略経営研究科) 著	大逆転のブランディング：どん底から成長した13社に学ぶ	講談社	開架	675.2/Ta84
谷口 洋志 (経済学部), 朱 珉 著	現代中国の格差問題	同友館	開架・中央	332.22/Ta87
千葉 謙悟 (経済学部) 著	中国語における東西言語文化交流：近代翻訳語の創造と伝播	三省堂	開架・中央	824/C42
中央大学人文科学研究科 編	アフロ・ユーラシア大陸の都市と宗教 (研究叢書 50)	中央大学出版部	開架・中央	204/C66
中央大学人文科学研究科 編	中華民国の模索と苦境：1928～1949 (研究叢書 48)	中央大学出版部	開架・中央	222.07/C66
中央大学人文科学研究科 編	現代中国文化の光芒 (研究叢書 49)	中央大学出版部	開架・中央	920.27/C66
中央大学人文科学研究科 編	伝統と変革：一七世紀英国の詩泉をさぐる (研究叢書 47)	中央大学出版部	開架・中央	931/C66
築山 修治 (理工学部) 神戸 尚志, 福井 正博 著	ビジュアルに学ぶデジタル回路設計	コロナ社	理開 理開指定	549.7/Ts65
都筑 学 (文学部) 著	中学校から高校への学校移行と時間的展望：縦断的調査にもとづく検討	ナカニシヤ出版	開架・中央	371.47/Ts99
吉田 敬一, 井内 尚樹 八幡 一秀 (経済学部) 編著	地域振興と中小企業：持続可能な循環型地域づくり (現代社会を読む経営学 11)	ミネルヴァ書房	開架・中央	335.1/G34
服部 龍二 (総合政策学部) 著	日中歴史認識：「田中上奏文」をめぐる相剋 1927-2010	東京大学出版会	開架・中央	319.1022/H44
森田 一 服部 龍二 (総合政策学部) 編	心の一燈：回想の大平正芳その人と外交	第一法規	開架 総合政策	312.1/Mo66
淡路 剛久, 鎌田 薫 原田 純孝 (法務研究科) 著	物権 第3版補訂 (有斐閣Sシリーズ 13. 民法 2)	有斐閣	開架・中央	324/Mi47
兵藤 宗吉 (文学部) 緑川 晶 (文学部) 著	心の科学：理論から現実社会へ	ナカニシヤ出版	開架・中央	140/H99
福原 紀彦 (法務研究科) 著	新商法総則・商行為法講義ノート	文眞堂	開架・中央	325/F75
福原 紀彦 (法務研究科) 著	会社法講義ノート 補訂版	文眞堂	開架・中央	325.2/F75
藤本 哲也 (法学部) 著	刑事政策研究 (日本比較法研究所研究叢書 78)	中央大学出版部	開架・中央	326.52/F62
古部 頼子 (経済学部) 著	肥満の経済学 (アカデミック・ライブラリー)	角川学芸出版 角川グループパブリッシング(発売)	開架・市ヶ谷	493.12/F92
細野 助博 (総合政策学部) 中庭 光彦 編著	オール・ヒストリー多摩ニュータウン (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 11)	中央大学出版部	開架・中央	302.1/C66
本田 純一 (法務研究科) 小野 秀誠 著	債権総論 (新・論点講義シリーズ 7)	弘文堂	開架・市ヶ谷	324.4/H84
升田 純 (法務研究科) 著	最新PL関係判例と実務：誤用問題を含めて 第2版	民事法研究会	開架・市ヶ谷	324.55/Ma66
松田 俊道 (文学部) 著	聖カテリーナ修道院文書の歴史的研究	中央大学出版部	開架・中央	190.242/Ma74
松山 善男 (理工学部) 著	微分積分学	学術図書出版社	理開 理開指定	413.3/Ma91
丸山 秀平 (法務研究科) 著	総則・商行為法 / 手形・小切手法 第3版 (基礎コース 法学6. 商法1)	新世社	開架・中央	325/Ma59
戦略研究学会 原田 保 三浦 俊彦 (商学部) 編集	ブランドデザイン戦略：コンテキスト転換のモデルと事例 (叢書アカデミア 3)	芙蓉書房出版	開架・中央	675.2/H32
三浦 信孝 (文学部) 編	自由論の討議空間：フランス・リベラリズムの系譜	勁草書房	開架	309.1/Mi67
ハロルド・ジョセフ・バーマン 宮島 直機 (法学部) 著 訳	ドイツとイギリスの宗教改革が欧米の法制度に与えた影響 (日本比較法研究所翻訳叢書 58. 法と革命 2)	中央大学出版部	開架・中央	322.3/B38
宮本 悟 (経済学部) 八田 幸二 (経済学部) 益永 淳 (経済学部) 佐藤 拓也 (経済学部) 武田 勝 (経済学部) 著	攻略!! 日本経済	学文社	開架・中央	332.106/Mi77
受験新報編集部 宗像 紀夫 (法務研究科) 編	裁判官・検察官・弁護士をめざすあなたへ (Legal frontier)	法学書院	開架・中央	327.1/J92
森 正明 (文学部) 宮崎 裕樹 監修 著	DVD スポーツ競技別パフォーマンスUP究極トレーニング	成美堂出版	開架	780.7/Mi88
矢内 一好 (商学部) 著	キーワードでわかる国際税務	中央経済社	開架・中央	336.98/Y54
山下 真史 (文学部) 著	中島敦とその時代	双文社出版	開架・中央	910.26/N34/Y44
鈴木 玲 鷲谷 徹 (経済学部) ほか 編 執筆	新自由主義と労働 (法政大学大原社会問題研究所叢書)	御茶の水書房	開架	366.04/Su96

* 配置場所は2ヶ所までとした

②中央大学関係資料目録 2010.2 - 2010.7 (貴重書・準貴重書指定)

著者	作品名	請求番号
岸田 理生 (法学部卒) 草稿	父親は背後から迫って：小沼勝古都曼荼羅	K778.21/Ko78/Ki57
佐々木 基一 (元理工学部教授) 草稿	ツルゲーネフと私	K980.2/Tu6/Sa75

著者	作品名	請求番号
岸田 理生 著 (自筆署名入)	臘月日記：岸田理生戯曲集	912.6/Ki57
岸田 理生 著 (自筆署名入)	私の吸血學	914.6/Ki57
石川 三四郎 (東京法学院卒) 執筆あり	農民 創刊号	Z61/N49
高橋 幸雄 (元法学部教授) 編	晩夏 創刊号	Z90/B2:9



貴重書・準貴重書の利用について

貴重書、準貴重書の閲覧は館長の許可を要するため、事前の手続が必要です。
詳しくは中央図書館2階カウンターにお問い合わせください。
なお、大学院生は指導教員の推薦状が、学部学生は指導教員の同伴が必要となります。



中央大学創立 125 周年記念 図書館主催国際シンポジウムの開催について

中央大学図書館では、創立 125 周年を迎えるにあたり、16 世紀初頭から 19 世紀にかけてヨーロッパで編纂された法学分野の百科事典 86 点を集めた Repertorium Aureum を購入いたしました。このコレクションは、グーテンベルクの活版印刷術の発明から 50 年ほどしか経っていない図書を含む、世界的にも大変貴重なコレクションです。

シンポジウムでは、このコレクションを題材として、本学の創立者たちが目指した「法律の実地応用」を念頭におきつつ、中世から 19 世紀ヨーロッパの法学知識の実地応用について、具体的にどのような知識が伝達されたのか、また当時、大学の果たした役割は何であったのかについて考察します。

開催日時	2010 年 10 月 9 日 (土) 14:00 ~ 17:00
場 所	多摩キャンパス 1 号館 1406 号室
テ ー マ	「16 ~ 19 世紀ヨーロッパにおける法知識の形成とその伝達」
パネリスト	ロルフ・クニユートル ポン大学名誉教授 ヨッヘン・オットー 弁護士・法学博士 内藤 求 京都大学客員准教授 津野 義堂 中央大学法学部教授
司 会	森 光 中央大学法学部准教授

※予約不要、途中入退場可ですので、皆様奮ってご参加ください

第 13 回中央図書館企画展示「長谷川如是閑の交遊と旧蔵書」が成功裏に終了しました

本学が輩出し、明治・大正・昭和の三時代にわたって活躍した近代日本を代表するジャーナリスト、評論家、文学者である長谷川如是閑（本名 萬次郎、1875 ~ 1969）に関する企画展示を 2010 年 5 月 24 日 (月) ~ 7 月 19 日 (月) に中央図書館 2 階展示コーナーにて開催致しました。期間中はたくさんの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

【展示をご覧になった来場者からのコメント】

- ★書籍上の知識しかなかった長谷川如是閑でしたが、様々な資料によって立体的な人物像が浮かんできました。また、本学がこのような貴重資料を有しているとは知りませんでした。大学博物館が開けるほどの資料だと思います。大変有意義であり、勉強になりました。ありがとうございました。
- ★自筆の原稿や手紙は、その人となりに直に触れるようで、感動します。パソコンやメールの時代になると、後世にこのような資料が残らないかと思うと、さみしいし、残念です。
- ★自分の祖父の同郷の幼なじみであった牧野富太郎氏とも交流があったことを改めて知り、直筆のハガキを拝見することが出来て嬉しく思いました。今後も如是閑氏の著書を読もうと思います。しかし、如是閑氏の著作の多さには恐縮します。長生きであればこそですが。



アカウンティングスクール図書室・文系大学院図書室開設のお知らせ

本学が、2010 年 4 月に市ヶ谷田町キャンパスを新たに開校したことに伴い、同キャンパスミドルブリッジの 2 階に「アカウンティングスクール図書室・文系大学院図書室」を開設致しました。専門職大学院国際会計研究科に所属する学生、教員および都心キャンパスにおける文系大学院生、教員の学修・研究を支援します。約 8,200 冊の図書、約 200 タイトルの雑誌を所蔵しています。また、世界のリアルタイム・マーケットデータが検索できる「ブルームバーク」等のデータベースを利用できます。

